新連載

新潟開港150周年記念

みなとまち新潟　歴史探訪①

新潟港は2019年１月１日に開港150周年を迎えます。今号から、みなとまちとしての新潟の歴史を市民の皆さんに再発見してもらう「みなとまち新潟　歴史探訪」の連載を始めます。

問歴史文化課(☎025-226-2584)

三ヶ津（さんかつ）の時代～みなとまち新潟のルーツ

上杉謙信・景勝が活躍した戦国時代、信濃川と阿賀野川の河口には蒲原津・沼垂湊・新潟津の３つのみなと(津・湊)がありました。

文献上の最初の湊は「蒲原津」で、およそ千年前から越後の国津(くにのみなと)でした。鎌倉・室町時代には「沼垂湊」が現れ、この２つの湊は蒲原平野の大小の川や潟湖（せきこ）をつなぐ舟運の駅して栄えました。その後、1520年頃には「新潟津」が登場します。上杉氏は、この３つのみなとを「三ヶ津」として把握し、流通や交通、軍事の拠点として支配しました。

豆知識　～戦国時代の「三ヶ津」の表記

1564年６～７月にかけ、京都・醍醐寺（だいごじ）の僧が越後国内を巡行した時の費用などを記載した「北国下り遣足帳（ほっこくくだ　けんそくちょう）」という帳簿には、新潟は「ニイカタ」「新方」、蒲原は「上原」「神原」、沼垂は「ノッタリ」と登場します。当時これら三ヶ津の間は、渡し船を使って移動していました。